

学校法人朴沢学園中期経営計画進捗報告(第4回、2022(令和4)年度)

中期経営計画期間は2019(令和元)年度から5年間であり、令和4年度の進捗を下記のとおり報告するものである。

(評価 ○:評価有 △:評価不十分 ×:未実施)

目標	進捗		次年度以降取組
	評価	概要	
<全体>			
○学生・生徒確保 (大学:入学定員×1.15) (高校:募集定員超)	△	○大学:659名、入学定員×1.10 ○高校:240名、入学定員×0.73	①HP等による情報発信力PR機会の創出 ②附属高校、協定高校、同窓会との連携強化推進 ③女子学生獲得に向けたPR強化(女子寮・硬式野球部) ④高校は、全教員行動により定員達成を目指す
<個別・大学>			
1. 教育・研究			
(1)カリキュラム改革	○	○令和5年度から防災士受験資格講座を開設、令和6年度からの情報教諭免許付与への申請を行った。 ○数理・データサイエンスに関する科目の新設を追加した。 ○英語教育改革の深化、高大接続教育の促進を継続した。	○継続案件の検討(スリム化、防災教育の発展など) ○ICT教育環境整備のため、令和4年度に学内Wi-Fi環境を整備し、5年度以降その活用を図る。
(2)教員養成の強化	○	○「教採塾」を継続し、教員養成に注力。令和4年度は過年度生を含む57名が合格した。 (現役14名、過年度生43名)	○高大接続による教員養成、国際交流等の学外での学修による経験知の拡大等を念頭に、「教採塾」の一層の効果的な運用を図る。
(3)英語教育改革	○	○コロナ禍の中でもプレースメントテスト、習熟度別の指導をオンラインを活用し継続して実施した。 ○使用テキストの刷新を図った。 ○学習意欲向上を目指し成績上位者を褒賞した。 ○オンライン語学学習支援システムを学内だけにとどめず、学外からも利用できるようシステムを変更した。	○英語教育の質向上への取り組みを継続し、学生の英語力向上を図る。 ○連携大学であるニュージーランドのカンタベリー大学などを対象にオンライン留学の実施を模索する。
(4)UNIVASへの積極的取り組み	○	○特別指定競技部(18部)に対してスポーツ局から安心安全プロジェクトを実施した。 ○情報発信専用HP「仙スポ」、入学前プログラム教材を活用中。 ○UNIVASから「部活動の地域移行支援」に関する事業の受託し、地域支援活動を行った。	○特別指定競技部のUNIVAS「SSC認証」取得へ向け、体制整備と強化を図る。 ○「仙スポ」を学生募集につなげ、入学前プログラムの導入演習への接続を継続する。 ○人材バンク、拠点型競技別スクール、指導者の資質・能力確認尺度導入等の実施を検討する。
(5)高校・大学の7年教育の取り組み	○	○高校名に「仙台大学附属」と明記。高校での三者面談時に大学説明会を実施するなどにより、令和4年度内部進学者47名を実現した。 ○7年一貫教育のための教員交流、事業の実施に取り組んだ。	○連携強化を通じて内部進学率を向上させる。 ○取組み強化のため「高大接続教育研究企画事務室」を企画した。

2. 東京オリンピック・パラリンピックへの取り組み			
(1)オリンピック・パラリンピック選手輩出	○	<p>【以下は過年度実施済み】</p> <p>○「ホストタウン事業」を活用し、ベラルーシ新体操代表チームの大会前合宿や地域との交流を行い、同国選手のメダリスト輩出に貢献、銅メダル獲得報告会を実施した。</p> <p>○東京オリンピックに卒業生が出場した。現役生の輩出はできなかったが、北京の冬季オリンピックでオリンピックを輩出した。</p> <p>○大学の知見を活かし、学生・教職員は大会運営や栄養管理などスポーツを「見る」「ささえる」側面で活躍した。</p> <p>○卒業生(本学職員)がブラジルで開催されたデフリンピック男子100mで優勝した。</p>	○今後もオリパラで活躍する選手の輩出に向けて全学的に取り組む。
(2)ホストタウン招聘	○	同上	
(3)ポスト東京を睨んだ大学教員の指導者派遣	○	<p>○ポスト東京オリンピック・パラリンピックへ、次代のオリンピックの輩出を目指し、海外競技機関と提携した選手・指導者の海外派遣を実施した。</p> <p>○教員・選手の海外派遣や海外選手の合宿等の受入れを行い、ポスト東京を睨んだ活動を行った。</p>	○今後も次回大会に向けて継続的な取り組みを実施する。
3. 地域連携			
(1)宮城県支援事業を通じた地域連携	○	○柴田町、亘理町、山元町、富谷市、大和町と新たに中学校の部活動支援、小学生の運動指導、地域防災人材育成等を実施した。	○今後も取り組みを継続・拡大していく。
(2)プロスポーツとのアカデミックパートナー連携	○	○仙台89ERS,ベガルタ仙台、楽天野団と継続的に活動を実施した。 ○女子サッカーの「マイナビ仙台レディース」を運営する(株)マイナビフットボールと協定を締結し、補食提供等の支援活動を実施した。	○ブランディング事業の成果を踏まえた各種事業について、さらに多くの学生の参画を促しながら継続・拡充していく。
(3)近隣市町村との連携	○	○現場実習を兼ね高齢者の介護予防、成人の健康実践指導実践した。 ○富谷市、亘理町と包括連携協定を締結した。 ○従来よりも規模を縮小し「東北こども博」を開催した。	○継続的に取り組みを実施する。
(4)民間企業等と連携	○	○仙台経済同友会と部活動に地域移行に関する協定を締結し、会員企業に就職後もスポーツ指導を希望する学生とのマッチング事業に着手。 ○女子硬式野球部創設に伴い、アイリスオーヤマと活動支援の目的で資金援助を含む連携が実現した。	○連携先と協力した取り組みを推進するほか更に民間企業からの支援を増やすよう努める。

4. 国際交流			
(1)学生の提携大学等への派遣	○	○コロナ感染状況の沈静化を踏まえて、令和4年度後期にJASSO奨学金プログラムを活用した提携先大学への学生の海外派遣(10プログラム中6プログラム)を再開した。	○令和5年度はJASSO奨学金プログラムとして9プログラムが採択されており、全て実施する方向で取り組む○提携先の大学から留学生数を拡大するよう努力する。
(2)新たな提携先拡大	○	○ニュージーランドのカンタベリー大学と連携協定締結後、長期留学生を派遣した。	○カンタベリー大学からの学生の受け入れに努める。○海外の提携先大学と連携し提携校以外の大学からの留学生受入れに努める。
5. 学生募集・就職支援			
(1)学生募集の強化	○	○WEB出願をさせるとともにLINEを活用した入試情報の発信に努めた。 ○同窓会との連携強化を図った。 ○高校訪問専担者を配置し情報提供と収集に努め、よりきめ細かな学生募集活動を行った。 ○羽黒高校(山形)、県立田村高校(福島)と連携協定を締結した。 ○民間主体で女子寮を設置、2年目で満室(100室)の状況となった。 ○女子硬式野球部を創設し、学生募集強化を図り10名が入学した。	○増加したオープンキャンパス等の回数を維持し、ホームページやCM等あらゆる媒体を活用した情報発信により大学紹介の場を増やす。 ○教員と職員が連携し全員体制で学生募集に注力する。 ○高校訪問専担者による情報収集結果を活かした取組みを進め受験者数の増加を図る。 ○指定校、附属校、連携校との深耕を図り、受験者数増加を目指す。
(2)就職支援の強化	○	○学生への就職支援の取組み時期を繰り上げ、きめ細かな指導に努め高い就職率(98.8%)を維持した。	○受験生増加を目指した就職実績の公表を行う。 ○強化策の取組みを継続的に実施する。 ○同窓会との連携を強化する。
6. 研究費の外部資金獲得	△	○企業との共同研究で外部資金を獲得することができたが、その他では十分な実績を上げることができなかった。	○企業との共同研究を着実に進めるとともに継続して外部資金獲得を目指す。
7. 施設整備			
(1)陸上競技場2レーン増設工事	○	○竣工	
(2)野球場の人工芝化	○	○竣工	
(3)川平地区再整備事業 (仙台地区拠点)	○	○新高校校舎棟・仙台大学サテライトキャンパス・法人本部棟、KMCH棟、アリーナ、連絡橋完成	○高大連携教育、仙台大学サテライトキャンパス、仙台地区公開講座等本格活用
<個別・高校>			
(1)学科再編の実行	△	○新学科(スポーツ創志科)新設 3年(完成年度)	○授業の継続改善実践 ○魅力ある学校づくりの継続実践
(2)大学の連携強化	○	○仙台大学附属高校化3年目 ○仙台大学進学者 47名	○継続して7年教育の取組み実践

＜個別・法人＞			
(1)コンプライアンス重視の職場づくり	○	①諸規程整備への継続取組	○継続した取り組みを実践
		②関連法律等改正への適時対応	
(2)安定した継続可能な財務基盤の構築	△	○諸物価高騰、生徒・学生確保未達	○継続して改善を図っていく。
		等により収支差額が見込みと乖離	
(3)川平地区再整備事業の実施	○	○第2期建築工事が令和4年10月に竣工した。	○高校旧校舎解体等残余の工事を進めていく。
(4)創立140周年事業の実施	○	①記念式典開催、関連歴史編纂	○継続して募金活動を実施していく。
		②裁縫教育資料データベースの新設	
		③創立140周年記念募金活動開始	
		(令和元年12月～)	

事業活動収支見込み

(単位:人、百万円)

			令和4年度決算(A)	中期計画(令和4年度 B)	A-B
学生数/生徒数	大学/大学院	学生数(*1)	2,610	2,704	△ 94
		(収容定員)	(2,542)	(2,542)	0
	高校	生徒数(*1)	835	920	△ 85
		(収容定員)	(990)	(990)	0
教育活動収支	教育活動収入		4,865	4,714	151
		学納金	3,723	3,841	△ 118
		経常費等補助金	943	670	273
	教育活動支出		4,963	4,629	334
		人件費	2,709	2,810	△ 101
		教育研究費	1,797	1,386	411
		管理経費	447	425	22
教育活動収支差額			△ 98	85	△ 183
教育活動外収支	教育活動外収入		1	1	0
		受取利息・配当金	1	1	0
	教育活動外支出		13	14	△ 1
		借入金等利息	13	14	△ 1
	教育活動外収支差額			△ 12	△ 13
経常収支差額			△ 110	72	△ 182
特別収支差額			32	0	32
基本金組入前当年度収支差額			△ 78	72	△ 150

*1: 在籍者数(5/1)を中退率で補正 *2: 令和2年4月 入学定員(330名)変更